

# 量子フーリエ変換

9BSP1118 村岡海人

2022 年 6 月 14 日

## 1 定義

$2^n$  成分の配列  $\{x_j\}$  に対して、その離散フーリエ変換である配列  $\{y_k\}$  を

$$y_k \equiv \frac{1}{\sqrt{2^n}} \sum_{j=0}^{2^n-1} x_j e^{i \frac{2\pi k j}{2^n}} \quad (1)$$

で定義する。 $(j = 0, \dots, 2^n - 1), (k = 0, \dots, 2^n - 1)$

また、量子フーリエ変換アルゴリズムは、入力量子状態に、

$$|x\rangle := \sum_{j=0}^{2^n-1} x_j |j\rangle$$

を

$$|y\rangle := \sum_{k=0}^{2^n-1} y_k |k\rangle \quad (2)$$

となるように変換する量子アルゴリズムである。ここで、(1) を (2) に代入する。

$$\begin{aligned} |y\rangle &= \frac{1}{\sqrt{2^n}} \sum_{k=0}^{2^n-1} \sum_{j=0}^{2^n-1} x_j e^{i \frac{2\pi k j}{2^n}} |k\rangle \\ &= \sum_{j=0}^{2^n-1} x_j \left( \frac{1}{\sqrt{2^n}} \sum_{k=0}^{2^n-1} e^{i \frac{2\pi k j}{2^n}} |k\rangle \right) \end{aligned}$$

となる。

よって、量子フーリエ変換は、

$$|j\rangle \rightarrow \frac{1}{\sqrt{2^n}} \sum_{k=0}^{2^n-1} e^{i \frac{2\pi k j}{2^n}} |k\rangle$$

を行う量子回路を見つけられればよいことになる。

また、この式はさらに変形でき、 $k = k_1 \cdot 2^{n-1} + \dots + k_n \cdot 2^0$ 、 $(k)_{10} = (k_1 k_2 \dots k_n)_2$  より、

$$\begin{aligned} \sum_{k=0}^{2^n-1} e^{i \frac{2\pi k j}{2^n}} |k\rangle &= \sum_{k_1=0}^1 \sum_{k_2=0}^1 \dots \sum_{k_n=0}^1 e^{i \frac{2\pi j (k_1 2^{n-1} + \dots + k_n 2^0)}{2^n}} |k_1 \dots k_n\rangle \\ &= \sum_{k_1=0}^1 \sum_{k_2=0}^1 \dots \sum_{k_n=0}^1 e^{i 2\pi j (k_1 2^{-1} + \dots + k_n 2^{-n})} |k_1 \dots k_n\rangle \end{aligned}$$

因数分解して、全体をテンソル積で書き直すと、

$$= \left( \sum_{k_1=0}^1 e^{2\pi j k_1 2^{-1}} |k_1\rangle \right) \otimes \dots \otimes \left( \sum_{k_n=0}^1 e^{2\pi j k_n 2^{-n}} |k_n\rangle \right)$$

10進数  $j$  は、2進数で、

$$j = j_1 \cdot 2^{n-1} + j_2 \cdot 2^{n-2} + \dots + j_{n-1} \cdot 2 + j_n \cdot 2^0$$

なので、2進小数は、

$$0.j_1 j_2 \dots j_{n-1} j_n = j_1 \cdot 2^{-1} + j_2 \cdot 2^{-2} + \dots + j_{n-1} \cdot 2^{-n+1} + j_n \cdot 2^{-n}$$

となるから、これを用いて、括弧内を計算すると、

$$\sum_{k=0}^{2^n-1} e^{i \frac{2\pi k j}{2^n}} |k\rangle = (|0\rangle + e^{2\pi 0 \cdot j_n} |1\rangle) \otimes (|0\rangle + e^{2\pi 0 \cdot j_{n-1} j_n} |1\rangle) \otimes \dots \otimes (|0\rangle + e^{2\pi 0 \cdot j_1 j_2 \dots j_n} |1\rangle)$$

となる。

まとめると、量子フーリエ変換は、

$$|j\rangle = |j_1 \dots j_n\rangle \rightarrow \frac{(|0\rangle + e^{2\pi 0 \cdot j_n} |1\rangle) \otimes \dots \otimes (|0\rangle + e^{2\pi 0 \cdot j_1 j_2 \dots j_n} |1\rangle)}{\sqrt{2^n}} \quad (3)$$

という変換ができればよい。

## 2 回路の作成

量子フーリエ変換を実行する回路を作成していく。そのため、アダマールゲート  $H$  についての等式、

$$H |M\rangle = \frac{|0\rangle + e^{i 2\pi 0 \cdot m} |1\rangle}{\sqrt{2}} \quad (m = 0, 1)$$

と、角度  $\frac{2\pi}{2^l}$  の一般位相ゲート

$$Re = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & e^{i \frac{2\pi}{2^l}} \end{pmatrix}$$

を利用する。

まず初めに、状態  $(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 j_2 \cdots j_n} |1\rangle)$  の部分を作る。1 番目の量子ビット  $|j_1\rangle$  にアダマールゲートを作用させると、

$$|j_1 \cdots j_n\rangle \rightarrow \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1} |1\rangle) |j_2 \cdots j_n\rangle$$

となる。ここで、2 番目のビット  $|j_2\rangle$  を制御ビットとする一般位相ゲート  $R_2$  を 1 番目の量子ビットにかけると、 $j_2 = 0$  の時は何もせず、 $j_2 = 1$  の時は 1 番目の量子ビットの  $|1\rangle$  部分に位相  $2\pi/2^2 = 0.01$  (2 進小数) がつくため、

$$\frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1} |1\rangle) |j_2 \cdots j_n\rangle \rightarrow \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 j_2} |1\rangle) |j_2 \cdots j_n\rangle$$

となる。以下、1 番目の量子ビット  $|j_l\rangle$  を制御ビットとする一般位相ゲート  $R_l$  をかけると ( $l = 3, \dots, n$ )、最終的に、

$$\frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 \cdots j_n} |1\rangle) |j_2 \cdots j_n\rangle$$

が得られる。

次に、状態  $(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_2 \cdots j_n} |1\rangle)$  の部分を作る。先ほどと同様に、2 番目のビット  $|j_2\rangle$  にアダマールゲートを作用させると、

$$\frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 \cdots j_n} |1\rangle) \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_2} |1\rangle) |j_3 \cdots j_n\rangle$$

となる。再び、3 番目の量子ビットを制御ビット  $|j_3\rangle$  とする位相ゲート  $R_2$  をかけると、

$$\frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 \cdots j_n} |1\rangle) \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_2 j_3} |1\rangle) |j_3 \cdots j_n\rangle$$

となる。これを繰り返して、

$$\frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 \cdots j_n} |1\rangle) \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_2 \cdots j_n} |1\rangle) |j_3 \cdots j_n\rangle$$

となる。

以上のことを、 $l$  番目の量子ビット  $|j_l\rangle$  にアダマールゲート・制御位相ゲート  $R_l, R_{l+1}, \dots$  をかけていく ( $l = 3, \dots, n$ )。すると、最終的に、

$$|j_1 \cdots j_n\rangle \rightarrow \left( \frac{|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_1 \cdots j_n} |1\rangle}{\sqrt{2}} \right) \otimes \left( \frac{|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_2 \cdots j_n} |1\rangle}{\sqrt{2}} \right) \otimes \cdots \otimes \left( \frac{|0\rangle + e^{i2\pi 0 \cdot j_n} |1\rangle}{\sqrt{2}} \right)$$

となる。

(3) と比較すると、ビットの順番が逆になっているので、SWAP ゲートでビットの順番を反転させてあげれば、量子フーリエ変換を実行する回路が構成できたことになる。

SWAP ゲートを除いた、量子回路図で書くと、図 1 となる。

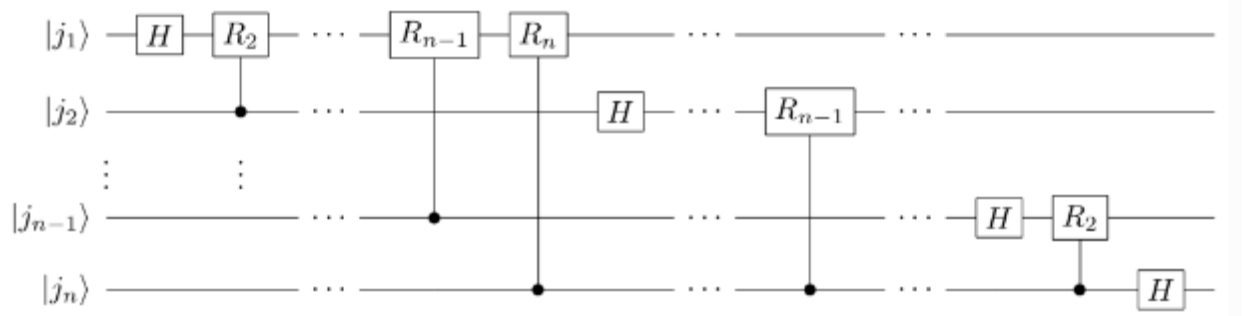


図1 SWAP ゲートを除いた量子フーリエ変換の量子回路